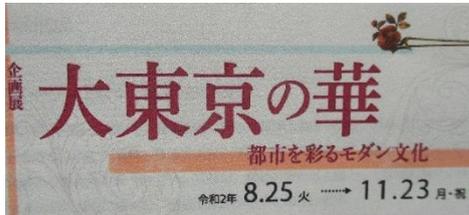


## 大東京の華 ー都市を飾るモダン文化

東京都江戸東京博物館 2020.08.25～11.23 (展示替え2回あり)



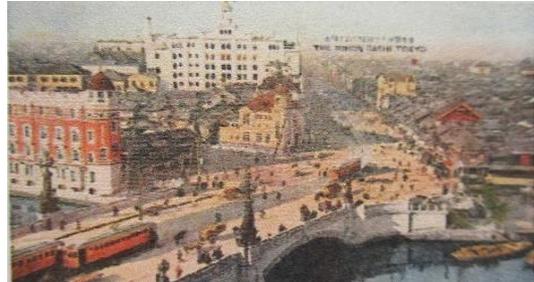
東京は、明治～大正にかけて近代的な街並みが徐々に形成されつつある中、1923（大正12）年に発生した関東大震災は東京に甚大な被害をもたらした。しかし、大規模な復興事業により生まれ変わった東京は、「大東京」

と称されたが、具体的にどのようなイメージであったのだろうか？

本展では、当館が所蔵する版画、絵葉書、写真などの中から明治、大正、昭和へと時代とともに発展する東京の姿を、加えて新たな時代の波は、そこに集う人々の装いやライフスタイルにも大きな変化をした様子を紹介している。

特に1930年代は、洋装に身を包み銀座の街を闊歩するモダンガールに象徴されるように、女性がより華やかに都市生活を謳歌し、流行したファッションやアール・デコ様式の調度品など人々の生活を飾った品々を展示している。

広重（3代） 《東京名所之内銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図》 1882（明治15）年  
絵葉書 《日本橋ヨリ三越呉服店ヲ望ム》 大正～昭和初期



関東大震災の復興事業により、新たな建築や公園、道路、橋などの建設が進められ、近代的な都市へと生まれ変わり、さらに鉄道の発達や郊外の開発も進められて、この頃から『大東京』と称されるようになった姿を紹介している。

小泉葵巳男 《昭和大東京百図絵版画 大百景兜町・取引所街》 1937（昭和12）年

藤森静雄 《大東京十二景の内 夜の銀座（京橋区）》 1933（昭和08）年

小泉葵巳男 《昭和大東京百図絵版画完制版 第四十七景》 1934（昭和09）年

